

NAVI CARS

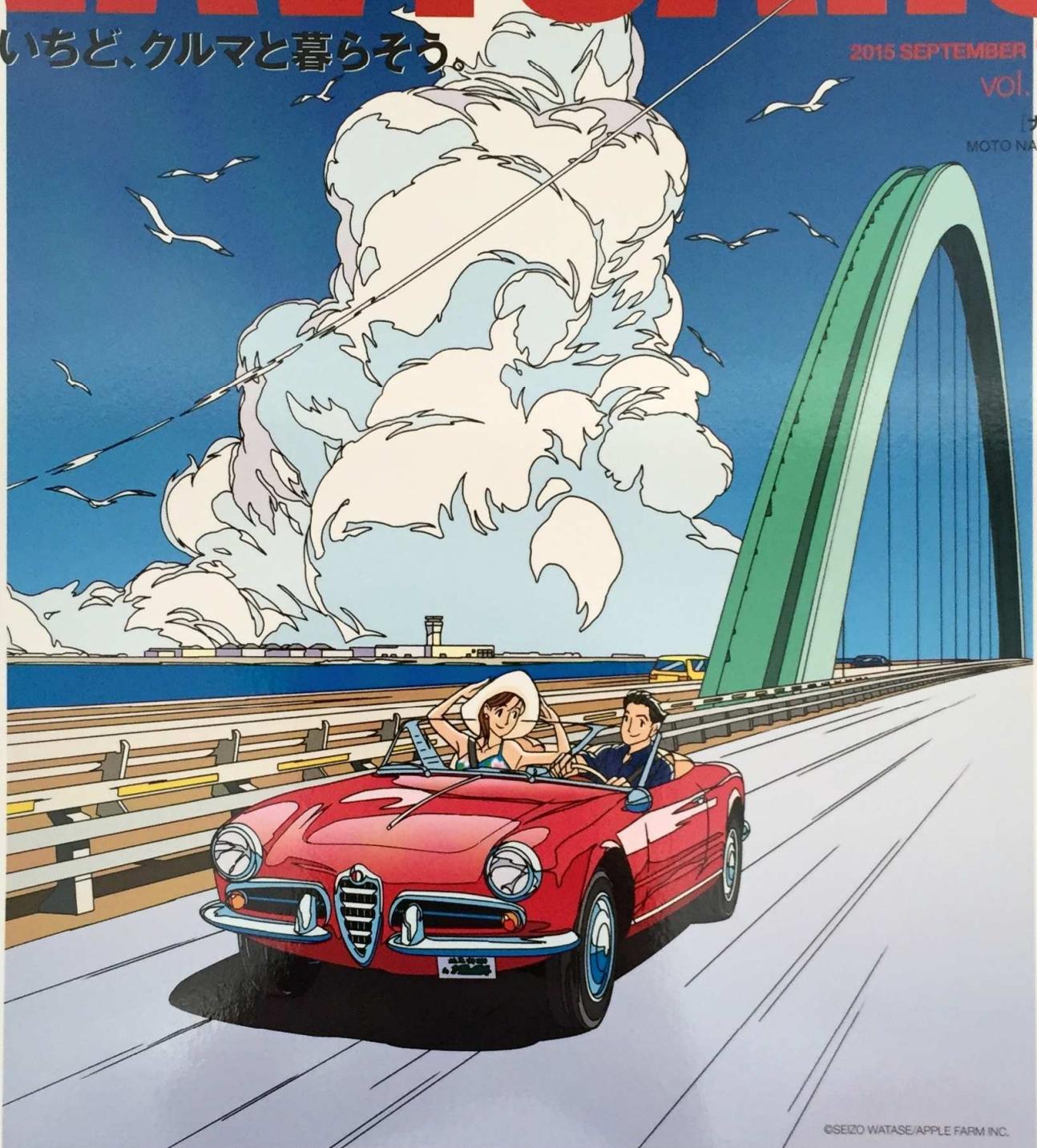
もういちど、クルマと暮らそう。

2015 SEPTEMBER

VOL.

19

【ナビカーズ】
MOTO NAVI 9月号増刊



©SEIZO WATASE/APPLE FARM INC.

80、90年代の“ヤングタイマー”にいま、乗りたい。

憧れのクルマに、
もういちど。

CAR LIFE WITH GOLF!

“クルマ”と“ゴルフ”的い関係

NAVI CARS TALK

マツダ ロードスター

NEW CAR REVIEW

メルセデス ベンツ AMG GT

フォルクスワーゲン パサート

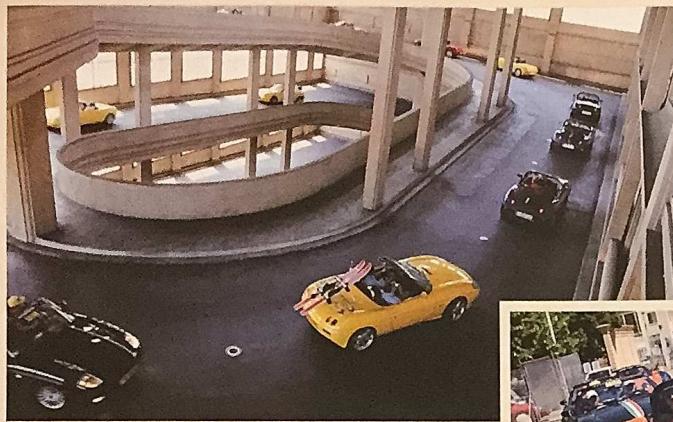
ミニ ジョン クーパー ワークス

ボルボ ディーゼルモデル

BMW 2シリーズグランツアラー

ホンダ ステップワゴン

日産エクストレイル ハイブリッド



記念ステッカーはバルケッタを手がけたギリシア人デザイナー、A.ザリビナス提供による構想初稿のもの。発売時の表記barchettaではなく、ニシャルが大文字であるのもミソ。



屋上テストコースに至るリンゴット・ビルの螺旋スロープを辿るエントラントたち。その姿は、まるでジオラマの中を走るミニカー、もしくはスロットレーシングカーの如く。



イタリアでは初回登録から20年が経過した車は、一定の基準に合格するとヒストリックカーとして税制・保険などで優遇措置がある。初期のバルケッタも、もはや合格の可能性がある。

世界中のバルケッタオーナーが友達さ!

「バルケッタ・クラブ・イタリア」が企画したイベントは、「誕生20周年記念ミーティング」と名がついているものの、南部ナポリを起点に、ローマ、北部マラネッロのフェラーリ博物館、そして「ロメオとジュリエット」で知られるヴェローナを経て、フィアットゆかりの地トリノに至るというツーリングも兼ねていた。クラブメンバー以外や、一部ルート/訪問地のみの参加も大歓迎という、ゆるさがイタリアらしい。

プログラム5日めの昼、ハイライトであるトリノのフィアット・リンコット旧工場ビルで待っていると、鮮やかなボディカラーのバルケッタが次々到着した。

クラブが設立されたのはバルケッタ生産開始から5年めの2000年。発起人のひとりで「会員番号2番」と胸を張るロマーノ・ビージ氏は、1956年生まれの今年59歳だ。「同じスパイダーなら、ひと月に一度乗るボクスターより、日々気楽に乗れるバルケッタのほうがいいに決まつ

てるさ」と語る。ちなみに愛車には名門ボラーニ製ホイルを履かせている。「4本で2500ユーロ(約35万円)。女房に黙って買ったら、あとからこびどく怒られちゃった」と頭を搔いて笑う。

その傍らで労もある。エンジンは当時の

フィアット車に広く使われていたもののバーバー

入手は比較的容易だ。問題はボディ系だとい

う。たとえば、ヘッドオーバヘッドの前後ハバ

ーはすでに入手不可。「だから日頃からまめに

廃車や事故車などを見つければ、必ずバーバー

取り用に買っておくんだよ」と明かしてくれた。メン

バー同士の情報交換も強い味方だ。そして彼は

「世界中にアーチ(友達)ができるのもバルケ

ッタの楽しさだ」と結んでくれた。

ロマーノ氏の言うとおり、リンゴット旧工場ビルの日も、さまざまな国から100台近くのバルケッタとアーチーが参集した。クライマックスは、ビルの象徴である屋上テストコース訪問である。アクセスには、工場時代使われていた螺旋

状のスロープを使う。幾何学的に幾重にも連なる坂を、色とりどりのバルケッタが輪舞のように辿る。感極まったエントラントから次々とホーンや歓声が上がった。それらの音が5階建ての吹き抜けを通じて反響する工場は、あたかも三十数年の眠りから目醒めたかの如くであった。

ふたたびロマーノが白い口ヒゲを動かしながら語った。「モダンなデザインにときめき、操縦することのエモーションを感じることができる。とても20年前の車と思えないんだよ!」。その表情が興奮と喜びに満ち溢れていたことは、いまでもない。

大矢アキオ AKIO LORENZO OYA

イタリアコラムニスト及びお話派自動車評論家。元
国立音楽大学卒・自動車誌「SUPER CGJ」編集記者
者・突厥渡伊(在住は20年)という旅好き人生を歩むも、それだけに各界に幅が広い。著書多数。
NHK「ラジオ深夜便」のリポーターとしても活躍中。

Owner snaps!



国賀は欧州の友人の車を借りて
参加した日本からも含め9カ国。
1. ブラジル人エミール。「珍なス
タイルと元気なエンジンが魅
力」。2. イラン人からスエー
デン、ドンズなどを経由して合流
したペトリ氏。「エジプトなデザ
イン最高!」3. ギリシャ人パナ
ギュティス氏と彼のパートナーはア
ドリア海をフェリーでやってきた。



Over my days with Youngtimers!

Fiat barchetta

=Buon 20° Anniversario!=

誕生20周年を記念して、“ヤングタイマー”な フィアット・バルケッタが集結!

1990年代日本において、クーペ・フィアットと並んで“お洒落イタ車”的シンボルだったバルケッタ。
本場イタリアでは、その誕生20周年を祝う催しが、メーカー公認クラブの主催で盛大に行われた。

Text&photo: AKIO LORENZO OYA



リンゴット旧工場ビルの前に集
合した参加者たち。今日だけ
カラーリードの車が路上で
大半を占める。アキオさん、白と
赤のバルケッタたちは人々
の頭を惹きつけているよう
だ。また、みんな黒のシャツスマ
ート・グレンズを向けるオフ
スタイルが少なくない。